

工学研究科・工学部意見箱回答用紙

【タイトル】 化学・バイオ工学科の院試免除者について

【意見・要望】

化学バイオ工学科の各研究室では院試免除者の募集人数に制限があります。この事事態は問題ないのですが、院試免除者の希望が、ある研究室の募集人数をオーバーした時、ジャンケンで配属を決めないといけない事を知りました。しかし、院試験免除者はその研究室に配属する事を確約しないといけないので、院試験免除者以外の人とは違って、院試で別の研究室にシフトすることが出来ません。行きたい研究室に入りたいために頑張っ勉強して院試免除を勝ち取ったのに、ジャンケンで負けてその研究室に配属出来なかったのでは、納得出来ないと思います。院試免除者の中でも、上位で選ばれた人と、ギリギリで選ばれた人では、成績には大きな差があると思います。ジャンケンなどという運任せな決め方ではなく、正々堂々と成績で決めて欲しいと思います。

【改善に向けた具体的提案】

ある研究室で院試免除者の募集人数がオーバーした時、成績の良い人が優先して配属できる制度を作る。

投稿内容公開の可否

該当□にチェック

可 否

【担当部署からの回答】

院試免除候補者の研究室配属可能人数は、以前は、基幹講座（青葉山の研究室）2名、協力講座（片平の研究室）1名でしたが、希望する研究室に入れなかったケースがみられたことから、平成20年度より、基幹講座3名、協力講座2名に増員しています。1つの研究室にこれ以上の人数の希望者が集中することは稀ですが、配属可能人数を超えた場合には、当事者どうし話し合いで決めることになっています。話し合いが難航した場合は、教務主任の先生に相談してください。また、院試免除候補者の資格をもち、研究室に優先配属された者であっても、上記の配属可能枠内であれば、大学院から他の研究室に移ることが可能です。

院試免除候補者は、1~3年生の成績から判断して、院試の筆答試験を受けても合格が確実な者として約20名が選ばれています。それぞれの学生が全く同じ科目を同じ数、履修しているわけではないので、わずかな得点の差で成績の優劣を決めることはしていません。第一希望の研究室に入りたいと思う気持ちはわかりますが、研究室に入ってしまうと、どの分野でも興味をもてる課題はあるはずで、研究能力の高い学生ほど、そのような適応力は高いものです。実際に研究室に入ってみて、それでも希望が変わらなければ、院試免除の資格を放棄して筆答試験を受けてください。

回答部署 化学・バイオ工学科

回答日 平成27年11月17日